

平成25年白老町議会議会運営委員会会議録

平成25年 5月31日（金曜日）

開 会 午後 0時57分

閉 会 午後 1時20分

○会議に付した事件

協議事項

1. 第3次議会改革の検証について
 2. 定例会6月会議について
-

○出席委員（6名）

委員 長 大 淵 紀 夫 君

副委員長 本 間 広 朗 君

委 員 吉 田 和 子 君

委 員 小 西 秀 延 君

委 員 山 田 和 子 君

委 員 前 田 博 之 君

委員外議員 松 田 謙 吾 君

副 議 長 及 川 保 君

議 長 山 本 浩 平 君

○欠席委員（1名）

委 員 西 田 祐 子 君

○職務のため出席した事務局職員

事 務 局 長 岡 村 幸 男 君

主 査 本 間 弘 樹 君

◎開会の宣告

○委員長（大淵紀夫君） ただいまから議会運営委員会を開会いたします。

（午後 0時57分）

○委員長（大淵紀夫君） 前回の積み残しの部分でございまして、第3次議会改革を各会派で検証していただいて、変更したほうがいい部分、このように修正したほうがいいというようなものがございましたらその意見をきょう皆さんからお聞きして、直すものは直し、6月会議で所管事務調査を終了させるということで準備してきた会議でございます。各会派で議論した結果、修正すべき部分等々ございましたらお伺いしたいと思います。

資料2のほうから行いたいと思います。結果の評価の問題ですけれども、それぞれどこからでも結構ですので、出していただければと思います。修正部分ありましたらどうぞ。

前田委員。

○委員（前田博之君） 6ページの自由討議の反問の中で、取り扱い。引き続き検討はいいのですけれども、前回もありまして、反問権1問ではなくて次もやりたいということで、議長のほうで質問の時間制限あるのだよと言ったら、そしたらやめますと言いましたけど、反問あって1回答えましたがけれども、反問に対して答弁できる時間を十分取ってほしいのです。お互いに確認とか理解しない上で終わってしまうという部分がありますので、ここでこの取り扱いについて今後の状況を見た中でと。今後ということは今現実に出ているわけですから、取り扱いについては今後議論するという形にしておいてほしいと思います。本当に、相手の反問に十分に答弁したいのです。

私は、質問つくる中ではここで反問くるなと思っていますから、十分それらは調査して用意してきていますから、そんな生煮えで終わらせるのではなくて、そういう時間を取ってほしいのです。質問時間に入れないで別の形で。そういうことをここで議論云々ではなくても、ぜひ早急にしてほしいと思いますので、今後の状況ではなく、状況はもうはっきりしていますので、これからは今後は今後議論していくということにしてほしいと思います。

○委員長（大淵紀夫君） ただいまの件ですけれども、当然、次回の改革というふうな名前にするかどうかは別ですけれども、その中で議論をして詰めていくという、これこそ積み残しの部分でございます。

それで、この文章ですけど、この取り扱いについては次期なら次期の中で議論するというふうに、今後の状況を見てというのは、状況を見て議論するかしないかを定めるということではなくて、これは議論するとなっているのです。前回の話の中でそう決まっていますから。ですから、取り扱いについては、次期の計画の中で議論するとか何とかというふうに修正したいと思います。正式に次回の中でやるという意味です。次期というのは、今回でまとめが終わったからその次という意味です。その次期という言い方がまずかったら言葉かえてください。

岡村事務局長。

○事務局長（岡村幸男君） 確認していただきたいのは、今第3次ということの検証でござい

まして、4次をどうするかということがありますので、その辺はどうされるか。継続されるのであれば、今後議論するという事で整理していただいたほうがよろしいのかなど。

○委員長（大淵紀夫君） かがやきさんからうちの会派もございません。

よろしいですか2についてはこういう形で。これは本会議で読み上げませんので、今の部分を直した後、もちろん全員に再度配付しますが、こういう形で総括文章にするというふうにしたいと思います。

続きまして、資料3、委員会報告について。

松田委員外議員。

○委員外議員（松田謙吾君） 松田です。3ページが一番下、しかしから始まります、その後の三位一体改革、これから不信が強くなっているというところまでです。これは、うちの会派の西田議員ともよく話したのですが、これは西田議員の意向もあるのですが、ここを全国の傾向ではなく、白老の現状を書くべきではないかということだったのです。

それから、4ページの8行目かな、議会議員に対する不満・不信がアンケート調査であらわれておりとあります。これは政策研究会のアンケート調査なのです。ですから、ここの部分はおかしくないかなと言っていたのです。これは政策研究会のアンケートなのです。その辺がどうかということをお我々の会派で話したのです。

○委員長（大淵紀夫君） 前田委員。

○委員（前田博之君） 私のほうも、ここのアンケート調査、私も大淵議員と議会懇談会に行ったときには、この部分についていろいろ話し合っ、あくまでも政策研究会の内容的なことは言いませんけど、研究会でやったことなのだと、だから議会は余り関与していないのだというような言い方もしていますので、ここに公文書にアンケート調査と入れるのはどうかとか、あるいは入れるとしても、ちゃんと出典先を書きださないと、あれは町民意識調査のアンケートだと。そういう部分のことをちゃんと出典先を書きださないと、ここでもし政策研究会のことを言っているのであれば、これはここから削除すべきだと私は思います。

それと、下から2行目です。今財政問題を解決する重要な行政課題を抱え、議会の果たす役割は非常に重要であり、住民に信頼される議会をと言っていますけど、これはわかります。ただ、住民に信頼される前に、多様化する住民の意識を反映する、意思を反映する、町民の声を反映するのだということを全体の文書から酌み取れませんので、できればここに、これは会派で議論していますので、多様化する住民の意思を反映し、住民に信頼される議会を目指しという文の文言をもしよければ追加してほしいと思います。

○委員長（大淵紀夫君） 今民の会から出ました3ページのしかしから4ページの頭から3行目までの部分ですけれども、私が議会事務局と相談していろいろ議会事務局中心につくっていただいたのですけれども、白老町のことを意識して書いたつもりだったのですけれども、ちょっとそのように受け止められないということであれば、どこをどういうふうにかえればいかと思っております。

三位一体改革による地方交付税の削減などにより、地方財政は悪化の一途をたどり、自治体の効率化により財政基盤の確立ため地方分権の推進を目的とした平成の大合併の中では、効率

化を求める余り議会に対しても議員定数、議員報酬の削減というふうには、白老が合併していないだけで、全国的な行政の中で波にのまれてこういう状況だということは確かなものですから、そういうふうに記載したいのですが、もうちょっと白老町の状況を書いた方がいいということであれば、それはそれで考えるのですが。そこを意識して書いたつもりだったので。

松田委員外議員。

○委員外議員（松田謙吾君） 私は、今のこの財政状況、国政の中の三位一体改革、これも一つの要因かもしれませんが、この三位一体改革はもう8年くらい前の話なのです。三位一体改革とか骨太方針、私は今の財政状況は、20年前から財政改革プログラムが始まったのですが、こうなった責任は前任者の責任だと言ってきたのです。きちんと広報げんきにもあるし。原因はそう言ってきた。しかも10年間の財政プログラムを立てて、10年と言っても20年からなのです。20年の10月からかな、プログラムをやったのは。

それから、10年間で町を建て直すのだとやったのだけでも、それまでの責任は、政治責任だ、前任者の責任だとはっきり言ってきた。その中で、今回また二度目の財政危機とこう言っているのです。ですから、今回のこの財政危機はいろいろあるのだけれども、やっぱりバイオマスの問題とか、それから、一番大きいのは職員の給料、普通のまちになったと削減したことが大きいと思うのです。

それから、報道にもあるように第三セクター債、これを導入したことが大きいのだと書いてあります。それで財源不足になったのだというようなことも、今白老のまちの状況ではないかなと。まだあるのですけれども、それも入れたほうが町民にわかりやすいのかと思うのです。

○委員長（大淵紀夫君） 今の意見に対してどなたかご意見ございますか。

私の考え、つくった者としての考えなのですけれども、今のご意見に皆さん納得できれば、入れるというわけにはいかないと思います。それはなぜかと言いますと、これは議会改革に関する事項の報告書でございますから、今松田委員外議員が指摘された部分がなじまないとしたら、削除するか、今の文章を入れないか。そういうふうな処置の方が私はいいと思います。そうでないと、財政問題で報告するかということではございません。議会改革の中でどういう状況があったかということをごここでは述べているわけですので、今の文章が適切ではないとしたら、それは今松田委員外議員が言われたような形で入れるというわけにはきついかないと思いますので、適切でなかったら削除をするというふうにはしかならないのかなという気がしています。なぜかという議会改革に関する事項の報告書でございますので、ここの部分は今後どういうふうにしていくかという中身でこのことに触れていますから、適切でないとしたらそういう処置をとるほうがいいのかなと思うのだけ。

岡村事務局長いかがですか。

○事務局長（岡村幸男君） 今のご指摘を受けると、大合併だとかという言葉が入っているものですから、なかなか白老町の状況ということにならないのかなということがありますので、例えば、財政の悪化は一途をたどりというのはその通りだと思いますので、自治体から効率化を求める余りを削ってしまえば、一途をたどり、議会に対しても議員定数、議員報酬削減など住民の不満・不信が強くなっているというふうにはつながると思って今見ていたのです。

○委員長（大淵紀夫君） 松田委員外議員。

○委員外議員（松田謙吾君） 住民の不満は議員報酬の削減ではないのです。議員報酬のアップに不満を抱いたのです。議員報酬を40%ふやすということになったでしょう。その拡大に不信・不満を抱いたのです住民は。ここのところが逆ではないかと思ったのです。議員報酬の削減など住民の不満・不信が強くなったのは、議員報酬を上げると言ったからだとは思うのだけ。ここは逆だと思っているのです。

○委員長（大淵紀夫君） 岡村事務局長。

○事務局長（岡村幸男君） 削減を取るということでそこも整理できます。議員定数、議員報酬など住民の不満。今の話からいけば、財政は悪化の一途をたどり、議会に対しても議員定数、議員報酬など住民の不満・不信が強くなっていると。こうであれば整理がつくかと思えます。

○委員長（大淵紀夫君） 皆さんどうですか。よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（大淵紀夫君） アンケートの件はカットします。カットしたほうが良いと思います。別団体です。

岡村事務局長。

○事務局長（岡村幸男君） ここを削除するというのであれば、ますますその存在は高まっている。と丸どめして、以降、アンケート調査にあらわれており、この状況を直視しということまで削って、高まっている。議会が名実ともに住民の代表機関として活性化しというふうにつながっていけば、削ることによってここが整理できるかなと思いますけれども。

○委員長（大淵紀夫君） この件はいいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（大淵紀夫君） 存在は高まっている。その後ずっとカットして、議会は名実共に住民の代表機関として活性化し、というふうにつながるといことであります。そうするとこれ全部消えますので。

それと、前田委員の会派から出ました、議会の果たす役割は非常に重要であり、その後に多様化する住民意思を反映し、住民に信頼される議会を目指し云々というふうに入挿したらどうかということでもありますけれども、この件はどうでしょうか。

あと、引き続き議会改革を推進していく、これは議運でこの所管事務調査を取る、取らないにかかわらず、議会改革は推進していくでしょう。枕言葉みたいなものですから。

以上それぞれの会派から出た意見で、3点の修正を加えたいと思いますが、そのほかのことを含めてございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（大淵紀夫君） それでは、ただいまの部分直して、6月会議に議会運営委員会の報告として行うというふうにいたしたいと思えます。

続きまして、2番目の意見書の関係ですけれども、これにつきましては、きょう配付ですので各会派で十分練っていただきまして、6日、一般質問の締め切りの日に議運がございます。その後すぐ広報広聴常任委員会の小委員会があるのでその日はできませんので、6日に改めて

会議を招集するというふうに、皆さんの合意を得て招集するというふうにしたと思いますけれども、意見書の関係についてはそのような形で取り進めてよろしゅうございますか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（大淵紀夫君） それでは、そのように進めたいと思います。

各委員の皆様から何かご意見ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（大淵紀夫君） 議長、何かありますか。

○議長（山本浩平君） ありません。

◎閉会の宣告

○委員長（大淵紀夫君） それでは、以上をもちまして議会運営委員会を閉会いたします。

（午後 1時20分）